

志賀原発廃炉 県に申し入れ

市民団体

停止中の北陸電力志賀原発について、市民団体「さよなら！志賀原発ネットワーク」のメンバー十四人が二十八日、県庁を訪れ、北電に廃炉を求めるよう申し入れた。



県側に申し入れ書を手渡す中垣たか子共同代表（左）＝県庁で

申し入れは、志賀原発1、2号機ともに廃炉に向けた検討を開始すること▽原発に頼らない新たな地域振興策などを講じること▽地震だけでなく、台風や大雨など複合災害を想定した防災計画の見直しを行うこと―など五点。共同代表の中垣たか子さんは、原子炉建屋内の雨水流入やモニタリングポストの床上浸水などを挙げ、北電の安全管理体制を批判した。

県側は千葉正之原子力安全対策室長らが対応。敷地内断層が活断層である可能性を指摘されると、千葉室長は「活断層かどうかは原子力規制委員会が判断をするので、評価を待つしかない」と繰り返し返した。

（蓮野亜耶）

2018
11.29
甲日